

総合討論



リレートークの総合討論

○福士 かなり時間が押していますが、できれば5時ちょっと前くらいまで、できるだけ急いでやりたいと思いますので、ステージの様子、椅子に各演者の方が上がっていただいて、そのまま進めさせていただければ、と思います。

私はちょっと立ったまま、お話しさせていただいて失礼しますが、ここまでお話しただきましたように、岐阜県を中心に考えると、やはり乗鞍というフィールドというのが非常に大事になるなるのだろうと思いますし、また、そこと域外地域に関連する動物園で、そのうまく発展させる形で中央アルプスの生息地の復活・復元というようなことで繋がっていくのかなと思います。

ただ、最後に、それが意味、旗印のような、全体的な底上げという点では、現在、北アルプス、それから南も含めて、全体的にきちんと守っていかないといけない、というように思います。

楠田先生が出された三角（生態系ピラミッド）のように、トップがいるためにはできるだけ底辺が広く、そして厚いものが必要だと思います。そのためにも、県民というか、皆様と一緒にライチョウを考えることで、実は日本全体の自然にも繋がるのかな、と思います。

それでは、時間もなかなかないところですが、はじめに、リレートークしていただいた方から、簡単に全体を通して一言ずつお話し、今一度いただければと思いますが、水田様からお願いします。

○水田 やっぱり、保全サイドだけで進めていくことは大変なことなんだろうなあ、ということがよく分かりました。

動物園や国立公園の整備サイドなどと連携して物事を進めていく、そういうことが大切なのかなと。

○福士 ありがとうございます。それでは、池田様。

○池田 域内保全をしていく上では、今回、私はシカの話だけをしましたけれど、それ以外に、イノシシの話だったり、あとは捕食者の話という部分はしっかりと体系的にモニタリングしていく必要があるのかな、というのを実感しました。

○福士 ありがとうございます。では、宮川様、お願いします。

○宮川 リレートークの中では、国の増殖事業のダイナミックな話なども聞いていたのですが、事前質問の中で、一般の私たちには何ができるのでしょうかという質問があったと思いますけど、ちょっと考えてみたのですが、皆さんの小さな意識改革が、ちょっと気にしていただけるだけで、私たちの保護増殖事業とか、そういうものを応援していただけるのではないかな、と思って、その皆様の意識改革のために、県として普及啓発とか環境養育とか頑張っていきたいなと思いました。

○福士 それでは、佐藤様、どうぞ。

○佐藤 動物園の事業というのは、今日もお話ししましたけれど、何点かありますが、20年前になくて、今、やらなければならないこと、というのは、やはり、保全と福祉ですね。福祉は、動物を幸福のためにいかに飼うのか、という話ですから、これは動物が決めることです。我々は、どこまでできるかを一生懸命やるだけです。

保全は、今日お話ししたような内容ですけれど、色々な種類を取組んでますので、是非、成果を出したいと思っていますし、野生復帰の事業が本格化してくれば、そこに向けて、山で生きていく能力を持ったライチョウを作らなければいけないと思っていますので、そういうことも、飼育作業の中で詰めていきたい、というようなことです。

○福士 それでは、小林様。

○小林 今日のシンポジウムを通して、楠田先生のお話しもありましたけれど、ひとつはやはり、普及啓発というのは、非常に重要な部分のひとつかな、と感じました。

今回、シンポジウムに参加していただいた皆さんにも、是非、ライチョウ事業を知っていただく、そして、他に伝えていただく、山でライチョウを見た時には、やはり、足を気にしていただく、というような普及啓発、そして、その皆さんの協力を得ながら、事業を実施していくというのは、ひとつ、重要なことかな、と感じました。

○福士 はい、ありがとうございます。

それでは、こちらからいくつか、発表者の方にお伺いしたいのですが、まずは、やはり、先ほど楠田先生もお話しされました、岐阜県ないし岐阜県民はライチョウが嫌いなのか、という大きなテーマについて、宮川様から一言お願いします。

その他の関連することも含めてお話しただければ、と思います。

○宮川 私たちは、嫌いというわけではないのですが、ただ知らないだけ、ということだ
と思うんですね。

ちょっとずつ知っていったら、愛着も湧いてくるし、という風になってくると思っていま
す。

○福士 ありがとうございます。ということは、こういった事業というのは、ピンポイント
というか、単年度で頑張ればいいというものではなくて、社会の次世代、さらにその次の次
の世代まで、ずっと繋がるようなことだと思っているのですけれど、県としても引き続き継
続的に事業を進めていかれる、ということでしょうか。

○宮川 そのつもりでございます。

○福士 県もそういうことですが、国としても、環境省を中心に進められるということだと
思うのですけれど、そういった自治体と環境省を連携というか、そういったことについて
は、今後、どういう風に進んでいくことになるのでしょうか。

○小林 ぼく、今年入社の子ワカ環境省なので、あまりちゃんとしたことは言えないのです
けれど、やはり、今、国が主体として事業を進めていますけれど、地元住民、皆さんへのご
理解であるとか、保全に向ける力というのは、今後、非常に重要なパーツにはなってくると
思いますので、任意だけではなくて、県及び市町村の皆さんも含めて連携して、事業を進め
ていく方向に行くことが今後の目標かなと思っています。

○福士 そういったところを含めて、やはり民間の力も非常に大きくなると思うのですが、
動物園サイドでは、今後将来的に、色々な話が出たと思うのですけれど、それに加えて、自
然と現実というか、含めて何かありましたら、お話しただければと思います。

○佐藤 民間とか、行政の組織とか、国とか関係なく、やる事業は1つなので、ちゃんと連
携して、しっかりと表現できればいいと思います。

我々が2015年、16年で、卵を、山からおろした時に、一番心配したのが、やはり、地元
の人はどう思っているか。もしかして、ぼくたちが卵泥棒と思われてないか、というところ
を少し心配しました。

この計画の意味をちゃんと分かってもらえないと、我々のやっていることも独り相撲に
なってしまうので、そこは注意していきたいと思いますけれど、とにかく、保全とか、保護
とかいうのは、別にボランティアで一生懸命やってるわけでもなく、CSRというわけでもな
く、事業としてやっているのです。

それが利益を生むか生まないかは、全く別の話です。事業としてやっているのです、利益を
生む時もあるだろうし、全く生まない時もあるだろうし、そこを求めてやってないのである
のは間違いがない。その代わり、少なくとも、そのことを一生懸命やっていれば、理解して
くれる方も多くなりますから、それが楠田先生の言ったなんぼかに繋がったと思いますよ。
はっきり言って。

○福士 ありがとうございます。今までの3人のお話しを受けて、水田様、現場で、毎日巡回されている立場から見て、いかがでしょうか。

○水田 佐藤様のお考えに感銘しているんですが、乗鞍岳では、国立公園で利益を生むことに困っているんですね。というのは、どんどん訪れる人が少なくなっているんです。周辺には上高地があったりする訳ですが、乗鞍にはネームバリューが無い。その魅力と特色がはっきりしていないんです。そこでライチョウで何とか乗鞍を売り出せないか、というようなことを考えています。

環境省には自然環境を保護する部署があるほか、国立公園満喫プランといった、国立公園の利用と整備を促進するという計画もある訳です。また、隣は長野県、松本市です。環境省の内部組織、岐阜、長野の両県、高山、松本の両市が連携して、ライチョウを旗頭にして乗鞍の利用促進ができれば良いなと思いました。

○福士 はい、ありがとうございます。

そういったところも、学術的な基盤ですとか、ちょっとまた違った立場から、自然を見ているのが大学の役割のひとつかなと思いますので、池田様から、今までの話を踏まえて何かございましたら。

○池田 非常に難しい部分ですけど、個人的には、野生動物管理学研究センターという機関にいますが、実際に組織を紐解いていくと、県と大学が連携をしていて、県の森林環境税という寄附金で、私を雇用しています。そのため、県の宮川さんのいる生物多様性係の職員が大学に駐在していて、私も仕事をしていますので、県の人とはかなり密に連携を取っているので、9月16日にシカのライトセンサスを実施しましたが、そういう部分で、今回、ライチョウの調査をすることになりました。

今月中旬には丹生川でもライトセンサスを実施しますので、こういう関係性作りが今後のライチョウの保全にも繋がっていくと思いますし、県同士では中々難しいですが、隣の県との連携という部分でも、研究者同士の繋がり、ここにおそらく長野県環境保全研究所の方がいると思うんですが、そういったところで、研究者同士では繋がりがあるので、そういう部分で隣の県とも連携して、たとえば、乗鞍ですけど、そういう部分でも、県を跨いで保全に関係する調査などができれば良いかな、と思っています。

○福士 ありがとうございます。

ライチョウからすればですね、県境というのは、ほとんど存在しないはずですので、彼らにとってみれば、パスワードもいらぬし、もう自由に生きられるはずですよ。

やはり、全体ですね、いろんな立場から、様々な角度から、また、自分たちができることを一つ一つやるのが、大事なのかなと思いましたので、中々時間がない中で、十分にディスカッションを深めることができなかつたとは思いますが、今回の中村先生のお話、楠田先生のお話、更にリレートークも踏まえて、ライチョウの保全について、少し考える時間をいただいた、ということは非常に大事なことかと思えます。

皆さんも、一人一人、色々な思いがあると思いますので、できれば、話をしたり、今後繋いでいただければと思います。

また、このシンポジウムは明日も研究発表がありますので、是非、お運びいただいて、岐阜県民、実はライチョウが大好きでした、というメッセージを持って帰っていただければ、と思います。

それでは、これでリレートークを終わりたいと思います。

皆様、どうもありがとうございました。

○司会 福士先生、ご出演者の皆様、それぞれの立場からの熱心なご披露、そしてお声を聞かせていただきまして、ありがとうございました。

会場の皆様、どうぞリレートークにご出演いただいたステージの皆様へ、今一度、大きな拍手をお願いいたします。

ありがとうございました。

これまでのライチョウ保全の取組みや、その取組みにおける岐阜県の関わり、今後のライチョウ保全の方向性や課題等をお聞きすることができたと思います。本日のリレートークを通して、ライチョウの保全や生物多様性の保全について、会場の皆様のご理解が深まりましたら幸いです。また、本日のご感動を皆様の周りの方々にお伝えいただけたら、と存じます。